

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和5年5月11日発行

文責 校長 中尾 聡彦

1年生の様子

4月12日に入学した1年生の様子を紹介します。入学して1か月が過ぎますが、毎朝、上級生と一緒に登校する姿を見ていると、幼さの中にも頼もしさを感じています。学校下の横断歩道では、ちゃんと立ち止まって安全を確認して渡ることができるようになってきました。挨拶も自分からできるようになってきました。授業や給食時には、担任の先生方の話をしっかり聞いています。これらの姿は、担任はもとよりステージ I のリーダーや支援員の方々など、多くの教職員がかかわりながらチームで指導を行っている成果だと思っています。また、保護者や地域の方々のご理解とご支援の成果だとも思っています。他の学年も含めて、子どもたちの健やかな成長のために、子どもたちの夢の実現のために全職員で力を尽くしていきたいと思えます。



本物と出会うことによって、「夢と出会い、夢に向かう！」

4/20(木)、佐賀県警察音楽隊に来校していただき、素晴らしい演奏とパフォーマンスにふれる機会を設けることができました。素直に「格好いい！」という声が上がりました。その心の動きが、感動へと変わっていきました。終わった後、3年生は隊長のもとに行き「警察音楽隊になるためにはどうしたらいいですか？」と尋ねていました。8年生は「自分たちも楽器をやりたい！校長先生、楽器を買ってください！」と言ってきました。本物との出会いによって、「夢」や「憧れ」を抱いた子どももいたと思えます。「学ぶ」とは、「夢」や「憧れ」を実現するために努力することだと考えています。間違いなく子どもたちの心はプラスの方向に動いていました。



今回のコンサートについては、地域の方々への案内も考えましたが、5月8日の感染法上の分類が「5類」に引き下がるまでは控えようと考えました。今後は、このような素敵な時間を地域の方々とも共有できればと考えています。

最後に、子どもたちの「楽器を演奏したい」という「夢(憧れ)」をかなえるために、ご家庭で使われていない楽器がありましたら学校にご寄贈いただけないでしょうか。

ふるさと探訪

5月2日(火)は、ふるさと探訪となかよし遠足がありました。私は、ふるさと探訪に参加しました。まず、今年には原屋敷の歴史をたどるということで、原屋敷にある戦没者慰霊碑を訪ねました。地域の方々の先祖に対する思いが、この地域の歴史を作ってきたことを知りました。次に、桑木原のサイフォンの説明を受けました。平古場ため池と連動した先人の壮大な発想と知恵、労力に圧倒されました。そして、大野神社の境内で自然林に囲まれながら昼食をとりました。感心したことは、後期課程の子どもたちが、前に人が立つと静かになり、説明を聞きながら熱心にメモをとる姿です。この姿は、これからもずっと大切にしていきたいと思いました。また、何よりも講師として同行いただきました松本輝彦様、富永浩通様の卓越した見識と南波多郷学館の子どもたちのためにという温かい思いに感動しました。本当にありがとうございました。



わたしたちの「郷学館」は、わたしたちが創る

伊万里市内で唯一、1年生から9年生までが同じ空間で学ぶことができるのが義務教育学校「南波多郷学館」です。県内でも6校しかありません。1年生から見た9年生の姿はどのように映っているのでしょうか。9年生は最上級生としてどのような意識をもっているのでしょうか。とても興味深いことです。9年生は義務教育の最終学年です。ある意味、社会に出る準備が必要だと思います。昨今、校則の見直し等が社会問題になっています。「大人が決めたルールに従う」ということではなく、「わたしたちの学校は、わたしたちが創る」という意識を芽生えさせたいと思います。そのために、例えば、「郷学館の校則を見直す」「南波多町の未来」というテーマについて、児童生徒会を中心に自分たちの考えをまとめ、教職員や育友会、地域の方々と議論するという場を設けることができると考えていました。自分たちの思いや考えを伝え、大人と議論しながら、互いの意見を納得のいく形で一致させていくことは、子どもたちの将来において非常に大事な力となると思います。

早速、「中庭の利用」について児童生徒会から企画書が提出されました。今後、どのように展開していくのか楽しみです。

【通信欄】 ご感想・ご意見をお寄せください。 (年保護者 氏名)